

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		2・東書	第1学年 第2学年 第3学年	数学・701 数学・801 数学・901	新しい数学 1 新しい数学 2 新しい数学 3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～つり合っている天秤に重さが分からないおもりと1個1gのおもりがのっているとき、おもり1個分の重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> とし、りんごとオレンジの値段を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～一定の長さのロープを使って作った長方形の農園の面積と辺の長さの関係を文字や次数に着目して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～合同な三角形を敷き詰めて描かれた模様から2つの三角形に着目して移動の意味を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～直接測定することが困難な池をはさんだ2地点間の距離を、2地点を見通せる地点を決め縮図を使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～プールに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録を収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～「花見期間」と「直前期間」のスナック菓子の販売数のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～全校生徒の、昼休みに流してほしい卒業ソングの傾向について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、本棚を作るのに必要な棒の本数について考え、図や式の活用について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～式による説明の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、カレンダーの数の囲み方と囲んだ数の和の性質について考え、誤った考え方などについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について考え、条件を変えて調べた結果について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p>			

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。  第1学年～図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第2学年～二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。  第1学年～「数と式」は92ページ、「図形」は60ページ、「関数」は37ページ、「データの活用」は19ページであり、総ページ数は309ページで、前回より約7%増となっている。  第2学年～「数と式」は42ページ、「図形」は58ページ、「関数」は35ページ、「データの活用」は26ページであり、総ページ数は247ページで、前回より約7%増となっている。  第3学年～「数と式」は75ページ、「図形」は73ページ、「関数」は31ページ、「データの活用」は11ページであり、総ページ数は281ページで、前回より約2%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 内容のまとまりごとに問題解決の過程を振り返る「学びをふり返ろう」を掲載したり、「学びをひろげよう」において、数学と実社会や職業とのつながりを伝えたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 論理的な思考力を伸ばす「数学的活動（Q）」や、生徒の疑問を引き出して学習への動機付けをする「章とびら」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 「数学マイノート」でノートの使い方を示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第3学年の三平方の定理の学習で、函館山のロープウエーの麓から山頂までの距離を水平距離と垂直距離から求める問題を設定するなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が第1、3学年で取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、「D マーク」を掲載し、図形を動かすシミュレーションや実験の映像などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、巻頭目次の「前の学習」で、小学校の既習内容との関連が分かるようにするとともに、本文中の「ちょっと確認」や巻末「算数の確認」で小学校でつまずきの多い内容について確認できるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、「学びをひろげよう」で、数学と実社会や職業とのつながりを実感できるようにするとともに、「深い学びのページ」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、「虫めがね」マークで見方・考え方を明示したり、巻末の「大切にしたい見方・考え方」で見方・考え方の例示をしたりするとともに、本文中の「学びをふり返ろう」や「活用の問題」、「数学の自由研究」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定したり、学習した内容について自分の考えをまとめさせたりするなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、本時の学習課題がレモン色の枠内に太字で明記されていたり、例と似た型の問題に「◆マーク」を付け「例」と「問」の段差による生徒のつまずきに対応したりするとともに、節末の「基本の問題」や章末の「章の問題」、巻末の「補充問題」で、類題をくり返し練習できるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		4・大日本	第1学年 第2学年 第3学年	数学・702 数学・802 数学・902	数学の世界1 数学の世界2 数学の世界3
取扱内容		<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～つり合っている天秤にマグネットとおもりがのっているとき、マグネットの重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> として写真と封筒の重さを求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～数当てゲームの計算の手順から方程式をつくり、いろいろな数を代入し、等式を成り立たせる文字の値を調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動き方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～遊園地にある乗り物の動きから平行四辺形になるための条件を考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～直接測定することが困難な校舎の高さを、理科で学習した光の入射角と反射角は等しいことを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～等速で走っている選手の走った時間と進んだ距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～5 cmの高さまで水が入った容器に水を入れた時間と水位の関係を表で列べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～人がもっている長さの感覚のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～日本とイランのバレーボール選手の身長データを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～英和辞典1冊の中に掲載している見出し語の総数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～関数の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、速さが異なる3人の移動の様子について考え、表、グラフ、式から読み取れることについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～平行と合同の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、星形の図形の角の和を求める方法について考え、多角形の性質を利用する考え方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～関数の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、自動車の停止距離について考え、停止距離を求めるために必要なことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等					

<p>内容の構成・ 排列、 分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。  第1学年～基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第2学年～二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。  第1学年～「数と式」は99ページ、「図形」は66ページ、「関数」は36ページ、「データの活用」は22ページであり、総ページ数は311ページで、前回からの増減なしとなっている。  第2学年～「数と式」は45ページ、「図形」は62ページ、「関数」は28ページ、「データの活用」は24ページであり、総ページ数は241ページで、前回より約2%減となっている。  第3学年～「数と式」は73ページ、「図形」は68ページ、「関数」は28ページ、「データの活用」は13ページであり、総ページ数は293ページで、前回より約3%減となっている。</p>
<p>使用上の  配慮等</p>	<p>○ 生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるよう「考えよう」を掲載したり、数学と社会とのつながりが実感できる「MATHFUL」を掲載したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭における数学の学習の進め方についての説明や、問題発見・問題解決の流れを示した活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 領域ごとに色を設定したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の  配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第1学年の正の数と負の数の学習で、旭川市の最低気温を調べる問題を設定するなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が全学年で取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、「WEB マーク」を掲載し、図形を動かすシミュレーションや動画などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、巻頭目次の「これまでに学んだこと」で、小学校の既習内容との関連が分かるようにするとともに、本文中の「思いだそう」や巻末「小学校算数の振り返り」で小学校でつまずきの多い内容について確認できるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の  学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、章末の「社会にリンク」や巻末の「MATHFUL」で、数学と実社会や職業とのつながりを実感できるようにするとともに、巻末の「課題学習」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、巻頭の「数学の世界へようこそ」で見方・考え方を分かりやすくまとめたり、項の導入の「考えよう」で見方・考え方を引き出したりするとともに、本文中の「判断しよう」や「伝えよう」、章末の「学びの振り返り」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定したり、学習した内容について自分の考えを記述させたりするなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、「例題」と「問」の間に「たしかめ」の問題を挿入し、緩やかなステップにより、生徒のつまずきに対応するとともに、本文中の「プラスワン」や節末の「たしかめよう」、章末の「章をふりかえろう」、巻末の「補充問題」で類題をくり返し練習できるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		11・学図	第1学年 第2学年 第3学年	数学・703 数学・803 数学・903	中学校数学1 中学校数学2 中学校数学3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～つり合っている天秤にクリップと1円玉がのっているとき、クリップの内重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> としてハンバーガーとジュースの値を求め、連立二元一次方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～敷き詰める枚数が決まっている太陽電池の縦と横に並べた枚数の関係を表した方程式を立て、解を考える活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～公園の遊具を平面図形に置き換えて考え、基本的な平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～直接測定することが困難な木の高さの影の長さや鉄棒の高さを求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～視力検査に用いるランドルト環の直径と視力などの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～水を熱し始めてからの時間と水温の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～スキージャンパーの滑り降りた時間と距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～落下する定規を使った「ルーラーキャッチ」のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～メルボルンと東京の最高気温のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～ある湖にいる魚の数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～作図の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、銅鏡の一部からもとの形を復元する方法について考え、円の中心の決め方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～いろいろな確率の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、条件を変えて考えた結果について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～円周角と円の接線の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、円の接線の作図の方法について考え、接線が作図できる理由について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p>			
		○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。			

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>第1学年～基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～三角形の合同条件を使って証明の方法について理解する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～「数と式」は91ページ、「図形」は51ページ、「関数」は29ページ、「データの活用」は22ページであり、総ページ数は299ページで、前回より約1%増となっている。</p> <p>第2学年～「数と式」は42ページ、「図形」は53ページ、「関数」は29ページ、「データの活用」は24ページであり、総ページ数は255ページで、前回より約7%増となっている。</p> <p>第3学年～「数と式」は66ページ、「図形」は68ページ、「関数」は28ページ、「データの活用」は12ページであり、総ページ数は295ページで、前回からの増減なしとなっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 章の学習の最後に「できるようになったこと」や「さらに学んでみたいこと」を記入できるようにしたり、本文中の「おしえて！」に学習の中で感じる疑問を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 自然に出される疑問を提示した「次の課題へ！」や、課題を発見し、自分で学習を進めることができるようにする「！見方・考え方」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭に教科書を使った数学の学び方を掲載したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第1学年の正の数と負の数の学習で、負の数の導入として札幌市のある日の最高気温を示すなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が全学年で取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、本文中にQRコードを掲載し、図形を動かすシミュレーションや実験の映像などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるとともに、巻末の「プログラミングを体験してみよう」でICT活用の重要性に気付くよう工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、巻頭目次の「小学校で学んだこと」や各領域ごとの「ふりかえり」のページで、小学校の既習事項との関連が分かるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、「役立つ数学」や「数学の力」で、数学と実社会とのつながりを示すとともに、章末の「深めよう」や巻末の「疑問を考えよう」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、本文中の「！マーク」で見方・考え方を明示したり、巻末の「見方・考え方をまとめよう」で見方・考え方を分かりやすくまとめたりするとともに、「数学的活動のページ」や章末の「さらに学んでみたいこと」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定したり、学習した内容について自分の考えを記述させたりするなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、本文中の「例」でノート形式の模範的な解答の書き方を掲載し、生徒のつまずきに対応するとともに、節末の「確かめよう」や章末の「まとめの問題」、巻末の「補充問題」で、類題をくり返し練習できるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1学年 第2学年 第3学年	数学・704 数学・804 数学・904	中学数学1 中学数学2 中学数学3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようにしている。			
		第1学年～つり合っている天秤に段ボール箱とおもりがのっているとき、段ボール箱の重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。			
		第2学年～未知の二つの数量を $x$ , $y$ としてバスケットボールの2点シュートと3点シュートの本数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。			
		第3学年～一定の長さのロープを使って作った長方形の花だんの面積と辺の長さの関係を図や式や文字や次数に着目して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。			
		○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようにしている。			
第1学年～合同な図形を敷き詰めて描かれた模様から2つの図形に着目し移動の意味を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。					
第2学年～遊園地にある乗り物の動きを平面図形に置き換えて考え、平行四辺形になるための条件を使って仕組みを考察する活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。					
第3学年～直接測定することが困難な木の高さを、直接測定できる影の長さや棒の影の長さなどを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。					
○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようにしている。					
第1学年～水そうに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。					
第2学年～水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を式で調べる活動を通して、一次関数として捉えられ二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。					
第3学年～斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 $y = ax^2$ として捉えられ二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。					
○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようにしている。					
第1学年～二つのルートの所要時間のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。					
第2学年～札幌、東京、堺、那覇の8月の各日の最高気温のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。					
第3学年～袋の中に入っている白いビーズの個数について、母集団の一部を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。					
○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。					
第1学年～正の数、負の数の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、平均の求め方の工夫について考え、グループで考えの相違点などについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動					
第2学年～1次関数の活用において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、印刷枚数と印刷料金の関係について考え、1次関数のグラフについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動					
第3学年～平方根の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、短い辺と長い辺の関係について考え、どのような四角形で構成されているかについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動					

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～基本的な作図の方法を理解する学習の後に、図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～「数と式」は108ページ、「図形」は66ページ、「関数」は33ページ、「データの活用」は25ページであり、総ページ数は318ページで、前回より約3%増となっている。</p> <p>第2学年～「数と式」は48ページ、「図形」は72ページ、「関数」は32ページ、「データの活用」は34ページであり、総ページ数は270ページで、前回より約9%増となっている。</p> <p>第3学年～「数と式」は81ページ、「図形」は74ページ、「関数」は28ページ、「データの活用」は14ページであり、総ページ数は297ページで、前回より約1%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 章の導入課題「Let's Try」で日常の事象から数学的活動を始められるようにしたり、「数学の広場」で生徒の学習を深め広げるための話題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 既習事項で定着していない内容を前ページで確認できる「もどって確認」や、「章のとびら」の中で、社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ ノートの書き方を例示したり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第2学年の連立方程式の学習で、旭川市の雪の美術館の写真を掲載するとともに、雪の美術館の入館料から入館した人数を求める問題を設定するなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が全学年で取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、「まなびリンク」を掲載し、図形を動かすシミュレーションや実験の映像、練習問題などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、巻頭目次の「ふりかえり」や本文中の「もどって確認」で、小学校の既習事項との関連が分かるようにするとともに、巻末の「学びのマップ」で、小学校で学習した内容と中学校数学との系統性を示すなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、「章のとびら」や「数学メモ」で、数学と実社会や職業とのつながりを実感できるようにするとともに、本文中や章末の「学んだことを活用しよう」、巻末の「数学の広場」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、本文中や巻頭の「数学的な考え方」で、見方・考え方を明示したり、分かりやすくまとめたりするとともに、本文中の「みんなに説明しよう」、章末及び巻末の「学習のまとめ」や「学んだことを活用しよう」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定したり、学習した内容について自分の考えを記述させたりするなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、「例」と「問」の間に「たしかめ」の問題を挿入し、緩やかなステップにより、生徒のつまずきに対応するとともに、節末の「基本の問題」や章末の「章の問題」、巻末の「補充問題」で類題をくり返し練習できたり、章末の「学習のまとめ」で既習内容を振り返ったりできるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	



観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		61・啓林館	第1学年 第2学年 第3学年	数学・705 数学・805 数学・905	未来へひろがる数学1 未来へひろがる数学2 未来へひろがる数学3
取扱内容		<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～つり合っている天秤に封筒と1個1gのおもりがのっているとき、封筒内の重さを求める操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> とし、鉛筆とノートの値段を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～カレンダーを見て、ある日の真上の数と真下の数の積の関係を表した方程式を立て、解を考へる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～折り紙を折り、はさみを入れて作った矢印の形を観察し合同な図形を重ねる動き方を考へる活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～折りたたみ式テーブルを平面図形に置き換えて考へ、基本的な平面図形の性質を使って仕組みを考へる活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～直接測定することが困難な校舎の高さを、直接測定できる影の長さや自分の身長などを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～線香に火をつけてからの時間と燃えた長さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～日にちとダム貯水量の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～ある自動車の速さと制動距離の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～大きさの違う紙を2mの高さから落としたときの滞空時間のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～接続会社ごとのインターネットの通信速度のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～自分たちの学校の読書が好きな人の数について、母集団の一部を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～方程式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、先生の年齢が生徒の年齢の3倍になる年数について考へたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～箱ひげ図とデータの活用において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、昔に比べて気温が高くなっているかについて考へたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～三平方の定理の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、富士山の頂上から見渡せる範囲について考へたり深めたりする活動</p>			
学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等					

<p>内容の構成・ 排列、等 分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。 第1学年～図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第2学年～二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫 第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。 第1学年～「数と式」は90ページ、「図形」は60ページ、「関数」は30ページ、「データの活用」は24ページであり、総ページ数は331ページで、前回より約1%増となっている。 第2学年～「数と式」は40ページ、「図形」は56ページ、「関数」は32ページ、「データの活用」は21ページであり、総ページ数は259ページで、前回より約1%減となっている。 第3学年～「数と式」は68ページ、「図形」は70ページ、「関数」は26ページ、「データの活用」は14ページであり、総ページ数は315ページで、前回より約6%減となっている。</p>
<p>使用上の 配慮等</p>	<p>○ 「学習のとびら」や「利用の節」などで、学習内容に関連する身の回りの題材を取り上げたり、「自分から学ぼう編」を裏表紙から始まる縦開きの構成にして課題の存在を分かりやすく伝えたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 目的意識をもって学習に取り組めるように設けた「小見出し」や、考え方のポイントを示唆するキャラクターを掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書を必修部分とオプション部分の2部構成としたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の 配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第1学年の正の数と負の数の学習で、負の数の導入として旭川市のある日の気温を示すなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が全学年で取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、本文中にQRコードを掲載し、章末問題での問題の考え方や詳しい解説などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるとともに、「学びを生かそう」で、プログラミング的思考を融合した課題を取り上げるなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、本文中に「ふりかえり」を掲載し、小学校の既習事項との関連が分かるようにするとともに、巻末の「算数をふりかえろう」で、小学校の学習内容を振り返りながら学習が進められるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、「数学ライブラリー」で、数学と実社会とのつながりを示すとともに、巻末の「学びをいかそう」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、ページ下部の「虫めがねマーク」で見方・考え方を引き出すとともに、本文中の「説明しよう」や「まとめよう」で、根拠を明らかにして筋道立てて説明し、学習してきたことをまとめる場面を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、本文中の吹き出しで既習事項等を掲載し、生徒のつまずきに対応するとともに、節末の「練習問題」や章末の「学びを確かめよう」、巻末の「もっと練習しよう」や「力をつけよう」で、類題をくり返し練習できるよう工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		104・数研		第1学年 第2学年 第3学年	数学・706 数学・707 数学・806 数学・807 数学・906 数学・907
取扱内容 学習指導要領の総各目 則及び科の標、内容等	<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ つり合っている天秤に角砂糖とおもりがのっているとき、天びんがつり合う方法を考える操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～ 未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> として3点と2点のベルマークの枚数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～ 周の長さが決まっている長方形の面積と辺の長さの関係を表した方程式を立てていろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 合同な三角形を敷き詰めて描かれた模様を観察し合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～ 2段重ねの工具箱のアームの取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～ 直接測定することが困難な木の高さを、直接測定できる影の長さや棒の影の長さなどを使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 碁石と将棋の駒のつかみ取った数と重さの関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～ 3 cm の高さまで水が入った水槽に水を入れた時間と水位の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～ 斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～ 二つの市の最高気温の50日分のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～ 二つのグループのシャトルランのデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～ 英和辞典1冊の中に掲載している見出し語の総数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～ 文字を使った式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、マグネットの個数を求める式について考え、操作や図を使った解き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～ 多角形の外角の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、外角の和を求める式について考え、誤った考え方などについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～ 平行線と線分の比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、三角形と線分の比を活用する方法について</p>				

	て考え、補助線の引き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動
内容の構成・排列、分量等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。  第1学年～図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第2学年～直角三角形の合同になるための条件について考察する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫  第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</li> <li>○ 内容の分量については、次のようになっている。  第1学年～「数と式」は94ページ、「図形」は57ページ、「関数」は30ページ、「データの活用」は22ページであり、総ページ数は別冊を含めて352ページで、前回より約28%増となっている。  第2学年～「数と式」は46ページ、「図形」は58ページ、「関数」は32ページ、「データの活用」は22ページであり、総ページ数は別冊を含めて296ページで、前回より約32%増となっている。  第3学年～「数と式」は69ページ、「図形」は69ページ、「関数」は27ページ、「データの活用」は13ページであり、総ページ数は別冊を含めて360ページで、前回より約29%増となっている。</li> </ul>
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学んだ内容を活用して解決する「TRY」を設けたり、数学を学びながら福祉・資源・地球環境などの諸問題に自然な形で触れたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</li> <li>○ 本冊の内容を深め、学びを発展させる別冊や、新たな学習事項と既習事項とのつながり、共通点や違いを掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</li> <li>○ 重量が生徒の負担にならないように分冊にしたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>
指導上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、第1学年の正の数と負の数の学習で、負の数の導入として札幌市のある日の最高気温を示すなど、北海道に関わる文字や数値、写真等が第1学年で取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、「補充」、「資料」、「イメージ」、「考察」の4種類に分類された「Link マーク」を掲載し、補充問題や参考資料、アニメーション、活動を効果的に行うためのツールなどのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めるなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携した指導については、本文中の「ふりかえり」で小学校の既習事項との関連が分かるようにするとともに、巻末の「まとめ」で小学校算数との系統性を示し、振り返りながら学習が進められるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</li> </ul>
本市生徒の学習の状況等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、巻末の「数学旅行」で、数学と実社会とのつながりを示すとともに、「TRY」や別冊の「探究ノート」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、本文中のキャラクターによる「対話形式」で、見方・考え方を働かせることができるようにするとともに、別冊の「探究ノート」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定したり、授業をふり返って気付いたことを記述する課題を設定したりするなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、例に汎用性をもたせつつ、例と問いの間にギャップが出ないように、生徒のつまずきに対応するとともに、節末の「確認問題」や章末の「問題」、巻末の「力をつけよう」で、類題をくり返し練習できるよう工夫がなされている。</li> </ul>
その他	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1学年 第2学年 第3学年	数学・708 数学・808 数学・908	中学数学1 中学数学2 中学数学3
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 数と式については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～つり合っている天秤の両方の皿に同じ重さの物を加えたり取り除いたりするなどの操作的な活動を通して、一元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第2学年～未知の二つの数量を <math>x</math>, <math>y</math> とし、3点と1点のスクラッチカードの枚数を求める方程式を一元一次方程式に帰着させて考える活動を通して、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>第3学年～周の長さが <math>20\text{cm}</math> の長方形の辺の長さと面積の関係を表した方程式にいろいろな数を代入して調べる活動を通して、二次方程式を解く方法を考察し表現する。</p> <p>○ 図形については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～日本の伝統的な模様「麻の葉」を観察し、合同な図形を重ねる動かし方を考える活動を通して、平行移動、対称移動及び回転移動を具体的な場面で活用する。</p> <p>第2学年～2段重ねの箱の取り付け方から四角形などの基本的な平面図形の性質を見いだす活動を通して、三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用する。</p> <p>第3学年～直接測定することが困難な校舎の高さを、直接測定できる目の高さや縮図を使って求める活動を通して、相似な図形の性質を具体的な場面で活用する。</p> <p>○ 関数については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～正方形の1辺の長さや周の長さの変化などの伴って変わる二つの量の関係を表、式、グラフで調べる活動を通して、比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え、考察し表現する。</p> <p>第2学年～水が入っているプールに水を入れ始めてからの時間と水面の高さの関係を表で調べる活動を通して、一次関数として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>第3学年～斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べる活動を通して、関数 <math>y = ax^2</math> として捉えられる二つの数量の変化や対応の特徴を見だし、考察し表現する。</p> <p>○ データの活用については、次のような学習活動を取り上げ、目標を達成できるようになっている。</p> <p>第1学年～高知市の3月の平均気温のデータを収集しヒストグラムなどを用いて分析する活動を通して、データの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第2学年～福岡、大阪、東京の猛暑日のデータを四分位範囲や箱ひげ図を用いて比べる活動を通して、データの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。</p> <p>第3学年～国語辞典1冊の中に掲載している見出し語の総数について、母集団の一部分を標本として抽出し標本の傾向から母集団の傾向を読み取る活動を通して、標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現する。</p> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <p>第1学年～文字式の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、基石の総数を表す式について考え、図を使った解き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第2学年～くじの当たりやすさの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、くじを引く順番と当たりやすさについて考え、樹形図等を使った解き方について話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p> <p>第3学年～三平方の定理の活用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、海岸から見える限界の地点について考え、直角三角形を見いだすことについて話し合い、考えを広げたり深めたりする活動</p>			

<p>内容の構成・排列、分量等</p>	<p>○ 内容の構成・排列については、次のような工夫がなされている。</p> <p>第1学年～図形の移動に着目し、二つの図形の関係について理解する学習の後に、基本的な作図の方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第2学年～二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>第3学年～乗法公式を使って平方根を含む式を計算する学習の後に、因数分解の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現する問題を扱うなど、系統的・発展的に学習できるような工夫</p> <p>○ 内容の分量については、次のようになっている。</p> <p>第1学年～「数と式」は106ページ、「図形」は58ページ、「関数」は39ページ、「データの活用」は33ページであり、総ページ数は308ページで、前回より約6%増となっている。</p> <p>第2学年～「数と式」は47ページ、「図形」は64ページ、「関数」は35ページ、「データの活用」は28ページであり、総ページ数は248ページで、前回より約4%増となっている。</p> <p>第3学年～「数と式」は75ページ、「図形」は73ページ、「関数」は33ページ、「データの活用」は15ページであり、総ページ数は288ページで、前回より約3%増となっている。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○ 「暮らしと数学」や「数学研究室」で、数学的活動の楽しさを実感できる課題学習などを取り上げたり、問題の条件の一部を変えて新しい問題をつくる数学的活動の場面を設けたりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 巻頭に「数学的な見方・考え方を身につけよう！」や、巻末に自分の考えを書き、互いの考えを伝え合うための「対話シート」を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 誤答の多い箇所への注意喚起などをしたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインにしたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>
<p>指導上の配慮等</p>	<p>○ 地域素材については、第2学年のデータの活用の学習で、札幌市の気温が取り扱われている。</p> <p>○ ICTの活用については、「WEB マーク」を掲載し、アニメーションや図形を動かすシミュレーション、練習問題などのデジタルコンテンツにより、内容の理解を促し、学ぶ意欲を高めたり、巻末の「プログラムと数学」で、アルゴリズムを学び論理的思考力を身に付けられるような工夫がなされている。</p> <p>○ 小中連携した指導については、巻頭目次の「算数で学んだこと」で、小学校の既習内容との関連が分かるようにするとともに本文中の「確かめ」や巻末の「算数の確かめ」で、小学校でつまずきの多い内容について確認できるようにするなど、小中の円滑な接続への配慮がなされている。</p>
<p>本市生徒の学習の状況等</p>	<p>○ 学習したことを踏まえ、日常生活や社会で数学を活用する態度を育成することができるよう、「章の扉」や「数学のたんけん」、巻末の「暮らしと数学」や「数学を仕事に生かす」で、数学と実社会や職業とのつながりを実感できるようにするとともに、「身近なことがら」や「学び合おう」で、日常生活や社会の事象に関連する問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 数学的な表現を用いて説明し、振り返って考えを深めることができるよう、本文中の「大切な見方・考え方」で見方・考え方を明示し、学びを振り返って見方・考え方を意識付けるとともに、章末の「説明できるかな」で、自ら考え表現する力を高める記述式の問題を設定するなどの工夫がなされている。</p> <p>○ 学習内容の確実な定着を図ることができるよう、本文中の「確かめ」で既習事項を掲載し、生徒のつまずきに対応するとともに、本文中の「チャレンジ」や節末の「基本の問題」、章末の「章の問題」や「とりくんでみよう」、巻末の「補充問題」で、類題をくり返し練習できるように工夫がなされている。</p>
<p>その他</p>	